

リーディングDXスクール事業【実践事例】

西米良村立西米良中学校（宮崎県）

【取組内容①】 学校と家庭をつなぐコネクト学習の学びを活かした授業づくり

1人1台端末（持ち帰り端末）を効果的に活用したコネクト学習により学校と家庭をつなぎ、確実に学んだことを定着させ、児童生徒が主体的・協働的に学び合うことができる授業

コネクト学習の概要		学習の個性化	
スタンダード	復習型	予習型	活用型
「問いをつかむ」から「振り返る」まで、全段階を通ず標準的な授業スタイル。	学校でスタンダードの授業の流れを行い、家庭で自分の力に合わせて「確かめる」学習を充実させる。	家庭で考えをもたせることで導入の時間を短縮し、協働作業・協働解決・確かめる時間を確保する。	単元全体を通して、本時の振り返りを生かしながら、各自でテーマを設定し、家庭で情報収集や整理分析、まとめを行い、単元末に全体で共有する。
家庭		自分の考えをもつ	
学校（1単位時間）	問いをつかむ	問いを解決する	学校 ・本時の振り返り ・単元を通しての学び ⇒ 新たな疑問、興味関心等
	考えをもつ	考えをもつ	課題設定
	問いを解決する	問いを解決する	情報収集
	まとめる	まとめる	整理分析
	確かめる	確かめる	家庭 ・本時の学びを通して、各自でテーマを設定し、まとめる。 ⇒ 他者参照・他者共有により、テーマや内容を練り上げる。
	振り返る	振り返る	学校 学びをつなぎ、広げ、深める（学びの個性化） まとめた内容の共有・一般化
家庭	確かめる、習熟する		

主体的な学びや確かめの充実

指導の個別化
協働的な学びや習熟・発展の時間の充実

興味関心、自己表現・学習の深化の充実

連立方程式（中学2年）

【問いをつかむ段階】

いろいろな連立方程式の解き方を、3種類の問題の中から1題を選択させ、予習として取り組ませた。（コネクト学習予習型）

係数に小数がある連立方程式の解き方
次の連立方程式を解きなさい。

$$\begin{cases} 0.3x + 0.4y = 0.5 & \text{①} \\ x - 2y = -5 & \text{②} \end{cases}$$
 わかりやすくするために、まず連立方程式を、10倍する。

$$\begin{cases} 3x + 4y = 5 & \text{①'} \\ 10x - 20y = -50 & \text{②'} \end{cases}$$
 ①'×5より

$$\begin{cases} 15x + 20y = 25 \\ 10x - 20y = -50 \end{cases}$$

$$25x = -25$$

$$x = -1$$

$$x = -1$$
を②'に代入して、

$$-1 - 2y = -5$$

$$-2y = -4$$

$$y = 2$$

$$(x, y) = (-1, 2)$$
 ※家庭学習での課題

学びの充実

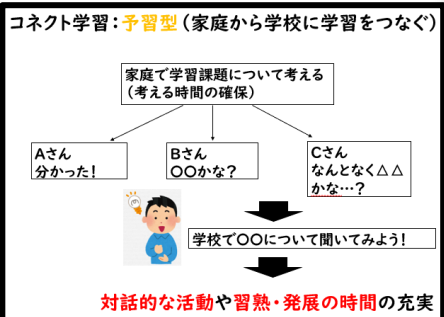
【考えをもつ・問いを解決する段階】

ジグソー法を用いて、同じ問題を解いた生徒同士で、答えや解き方の確認をさせた。お互いの解き方を確認しながら、どの解き方が分かりやすいか、どのような説明が相手に理解してもらえるかを意識させた。



コネクト学習のねらい

- 【1人1台端末（持ち帰り端末）の効果的活用】
- ① 学びに**連続性**をもたせる
 - ② 時間を**効率的**に使う
 - ③ 主体性を高め、**確実な学び**につなげる



【まとめる・確かめる・振り返る段階】

3つのコース（海コース：自分で黙々と、陸コース：友だちと協力しながら、山コース：先生と一緒に）に分けて、練習問題に取り組みました。苦手な生徒も友だちと話し合いながら問題を解こうと励む姿が見られた。

